

札幌市立福井野小学校の取組【読書：図書館活用授業】

1 研究のねらい

本校ではこれまで、学校と開放図書館司書、ボランティアが連携し、読書活動の充実に努めてきた。司書教諭を中心とした「朝読書」や「読書指導」などの学校としての取組と開放図書館を中心としたボランティアの取組が功を奏し、児童の読書習慣が身に付いてきたところである。

この機を捉え、さらに各々が工夫した活動を進めていくことによって「充実」を図り、また協働の取組によって「一体となった読書活動の推進」をしていく方策を探っていくことをねらいとする。

2 取組内容

(1) 学校としての取組

①朝読書の推進と学級文庫の充実

週3日、朝の10分を「朝読書の時間」と設定し、全校児童が本に向かう。習慣化は心身に与える影響が大きく、児童の会話の中にも読書歴をうかがわせるものが多く出てきた。児童が読む本は図書館の蔵書、または家庭から持ち込んだものが主であるが、蔵書にも限りがあり、多読する子にとっては飽きがかかる。そこで、全校の保護者に「学級文庫の寄贈」をお願いした。家庭で眠っている絵本や既読の本を学校に寄付していただく取組である。1か月あまりで100冊をこえる本が集まり、一挙に充実した。集まった本は対象年齢に分け、各学年に配架し愛読している。中には、自分の家から持ってきた本を友達に紹介したり勧めたりするなど、読書の輪が確実に広がっている。



②ブックさあくる、寄託図書館の積極的活用

校内の国語研究で、一作者に注目させるために、多くの作品に触れさせたり、並行読書を仕掛けたりして読書の機会を増やした。しかし、これには一時に多くの冊数の本が必要になる。そのために、ブックさあくるや寄託図書館を積極的に活用、單元ごとに繰り返し利用した。

(2) 開放図書館(きたきつね)としての取組

①読み聞かせの定期開催、各種行事の開催

開放図書館では、年間を通じて「図書館ボランティア」を募集しており、日常の貸し出し業務や図書整理の補助をはじめとして積極的な活動をした。月に一度のペースで「きたき



つね読み聞かせ会」を開催、低・中学年を中心に大勢の児童が集う。また、図書館に親しんだり、日本の伝統文化に触れたりすることを目的とした行事を開催、読書活動につながる啓発の役割を果たした。

②新一年生向け 図書館利用オリエンテーション

新入学の児童にも積極的に図書館を利用してもらおうと、開放司書とボランティアが図書館利用の出前授業(オリエンテーション)をした。加えて絵本や大判本を中心として低学年にも親しみやすいコーナーづくりにも力を入れた。



3 成果と課題

(1) 成果

学校、開放図書館ともに「読書の推進」という方向に向けて活動することにより、「いつでも、どこでも」本に親しめる環境が整ってきた。今年度の研究のねらいは十分に達成できたと考えるが、この中には細かな配慮と苦心がある。

- ・読書活動と国語科の授業がうまく結びつくように、教科書に掲載されている作品、作家の本を計画的にまとめて購入し、常備する。
- ・読み聞かせに参加すると貰えて、貯めていける「おはなしの会カード」を発行、各自が達成感、成就感をもち、次の読書活動につなげられるようにする
- ・寄託図書やブックさあくるの搬入、返却の手続きがスムーズに進むように、専用のコーナー、配送指示書ファイルの管理を進めた。返却準備の忘れによる校内の搜索や配送業者の待ち時間短縮なども、継続的に利用促進していくためにも、「使いやすさ」として大切な要素である。

このように、ねらいの達成のために、成果を支え工夫やアイデアを多く盛り込めたことが大きかった。



(2) 課題

今後はさらに一歩進んで、本に親しむことによる知的向上と、心身の安定にまで及んだ読書計画を立てていきたい。児童の視点として「わからないこと、調べたいことができれば、まず図書館」、また地域の方からは「学校図書館に、読みたい本があるかも」といった思いを抱かせるような、図書館を小さな「知の拠点」ととらえた活用推進をねらう。